

教育施設情報

施設名：京都大学医学部附属病院

施設基本情報 ※施設情報について、各施設への直接のお問合せはお控えください。

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54

URL：https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/

診療科長/指導責任者

コース	診療科長	指導責任者
胸腔鏡/ロボット支援食道切除術コース	小濱 和貴	角田 茂
腹腔鏡/ロボット支援胃切除術コース	小濱 和貴	奥村 慎太郎
腹腔鏡下/ロボット支援結腸・直腸手術コース	小濱 和貴	板谷 喜朗

対応するプラン（コース/プログラム）

- 胸腔鏡下/ロボット支援食道切除術：超短期間型、短期間型、中期間型、長期間型
- 腹腔鏡下/ロボット支援胃切除術：超短期間型、短期間型、中期間型、長期間型
- 腹腔鏡下/ロボット支援結腸・直腸手術：超短期間型、短期間型、中期間型、長期間型

各コースごとの年間手術件数

胸腔鏡/ロボット支援食道切除術コース	60	件
腹腔鏡/ロボット支援胃切除術コース	60	件
腹腔鏡下/ロボット支援結腸・直腸手術コース	180	件

対応するプランごとの応募要件

コース	プログラム	応募要件
胸腔鏡/ロボット支援食道切除術コース	超短期	胸腔鏡下・ロボット支援食道手術の参加経験（助手、術者）がある。
	短期	外科専門医を取得済みである。
	中期	外科専門医を取得済みである。
	長期	外科専門医を取得済みである。

コース	プログラム	応募要件
腹腔鏡/ロボット支援胃切除術コース	超短期	腹腔鏡下・ロボット支援胃切除術の参加経験（助手、術者）がある。
	短期	外科専門医を取得済みである。
	中期	外科専門医を取得済みである。
	長期	外科専門医を取得済みである。

コース	プログラム	応募要件
-----	-------	------

腹腔鏡下/ロボット支援結腸・直腸手術コース	超短期	腹腔鏡下・ロボット支援結腸・直腸手術の参加経験（助手、術者）がある。
	短期	外科専門医を取得済みである。
	中期	外科専門医を取得済みである。
	長期	外科専門医を取得済みである。

対応するプランごとの到達目標

コース	プログラム	到達目標
胸腔鏡/ロボット支援食道切除術コース	超短期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を見学し、自施設での実践へ繋げることを目標とする。
	短期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を学び、自施設での実践へ繋げることを目標とし、助手経験も含めたトレーニングを行なっていただく。
	中期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を学び、自施設での実践へ繋げることを目標とし、助手経験も含めたトレーニングを行なっていただく。
	長期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を学び、自施設での実践へ繋げることを目標とし、経験に応じて術者も含めたトレーニングを行なっていただく。

コース	プログラム	到達目標
腹腔鏡/ロボット支援胃切除術コース	超短期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を見学し、自施設での実践へ繋げることを目標とする。
	短期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を学び、自施設での実践へ繋げることを目標とし、助手経験も含めたトレーニングを行なっていただく。
	中期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を学び、自施設での実践へ繋げることを目標とし、助手経験も含めたトレーニングを行なっていただく。
	長期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を学び、自施設での実践へ繋げることを目標とし、経験に応じて術者も含めたトレーニングを行なっていただく。

コース	プログラム	到達目標
腹腔鏡下/ロボット支援結腸・直腸手術コース	超短期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を見学し、自施設での実践へ繋げることを目標とする。
	短期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を学び、自施設での実践へ繋げることを目標とし、助手経験も含めたトレーニングを行なっていただく。
	中期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を学び、自施設での実践へ繋げることを目標とし、助手経験も含めたトレーニングを行なっていただく。
	長期	定型化された腹腔鏡/ロボット手術を学び、自施設での実践へ繋げることを目標とし、経験に応じて術者も含めたトレーニングを行なっていただく。

給与（中期間型プログラムおよび、長期間型プログラム）

- 中期間型プログラム、長期間型プログラムともに給与の支給：あり（3ヶ月以上）

- 住宅手当/社宅：なし
 - 院内保育園/提携保育園：なし
-

施設の特徴：

- ✓ 手術に多く参加することができる。
- ✓ 幅広い症例を経験できる。
- ✓ ロボット支援手術を積極的に取り入れている。
- ✓ 手厚い指導が受けられる。
- ✓ 修練のシステムが確立している。
- ✓ 力量や修練期間に合わせて修練目標・プランの考慮が可能。
- ✓ 研究・学術活動の機会がある。
- ✓ 他診療科との連携が強い。

施設からの一言： 本施設では、ダビンチ・Hugo を含む 3 台の手術支援ロボットを活用し、ロボット支援手術を積極的に行なっています。また、多職種チームカンファレンスでの治療方針の相談や、手術支援 AI を用いた手術指導などを通して多様な経験を積み、幅広い知識を得ていただけます。60 以上ある京大関連病院を繋ぐ京都大学外科交流センターでは、施設の垣根を越え、年間を通して様々な手術手技セミナーや臨床研究セミナーを継続的行なっており、研修生はこうした学外のセミナー参加も可能です。また学会発表や論文執筆など学術活動にも精力的に取り組んでおり、学術的な教育を求める方も歓迎いたします。